

～海外派遣者からのレポート～

2007年7月 中国吉林省東北師範大学派遣者 北村 裕司

6月の後半、こちらでは、だいたい30度以上の気温が1週間くらい続きました。
こんな事は初めてだと、みんな言っています。
さすが中国。異常気象も半端じゃありません。
今回は、中国の環境問題について取り上げたいと思います



なすすべもなく、先祖の耕作地を墓にされてしまい、心を痛めている農民



がらんとした、ある景勝地の駐車場。周囲の農地の中でひときわ目立つ。

<農地の減少と汚染>

6月25日は、「第17回全国土地の日」です。

主な話題は、農地減少防止です。

現在中国の農地は、徐々に減り続けています。

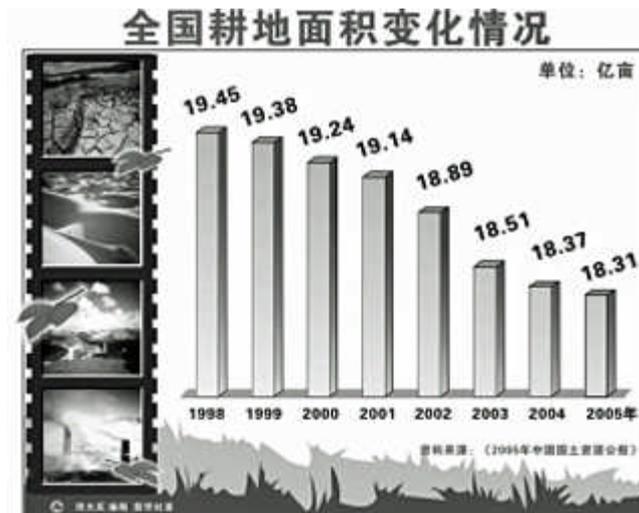
現在中国の農地は、18億ム(1ム=666.7平方メートル)で、一人あたりの耕地面積が、1.39ム、だいたい930平方メートル(約一反)です。

これは、全世界の一人あたり耕地面積の40%にも満たない数字らしい。

原因は、建設用地の過度の拡大、用地の集約化が出来ず、非合理的な利用を行っているため。

今後、厳しい管理制度を作るとともに、大々的に、重要性を宣伝していく旨が、新聞に書いてありました。

温家宝首相も「こども、孫にまで農地を残すため、これ以上の農地の減少を食い止める」等の発言もあり、各地方政府が、動き始めているようです。



農地の減少とあわせ、山林の減少も進んでいます。

「割り箸問題」は、ご存じの方もいるかもしれません。

以前、中国の割り箸は、日本の割り箸のようにリサイクル的な製造方法でなく、天然材を伐採して作っていました。

天然材の伐採が、山林の保水能力を下げ、ご承知のとおり、中国各地で洪水が発生しています。

併せて、黄砂問題等も発生しているところです。

現在、日中共同で植林作業などが、進んでいます。

ただ、植林の目標を達成しても、植林後の管理がうまくいかないなど、問題も残っているそうです。

また、18億ム農地のうち、1.5億ムが土壌汚染されていて、その他、汚染された水による灌漑汚染などを含めると、約10%以上が、土壌汚染されているそうです。

主な原因は、重金属や農薬による汚染です。

子供を連れてきたとき、土遊びをしないように注意されました。

土壌汚染が進んでいるためです。

<この現状を見て思うこと>

中国の農産物生産環境は、上記のとおりで非常に不安定です。

併せて、経済成長は、世界の工場である故、着々と進んでいます。

農産物の輸入も着々と増えていっています。

以前、中国の経済成長が、世界の穀物を食い尽くすという内容の本を読んだことがありますが、ここでは、それを実感として感じる事が出来ます。

論点が、かなり飛躍しますが、食べ物や、エネルギーなどの「地産地消」の重要性をこの中国の地で考えさせられるとは、思いもよりませんでした。

地産地消のメリットは、「旬のものが食べられる」「地域経済の活性化、愛着」「地域の伝統・食文化の維持と継承」など、様々なメリットが述べられています。

それ以上に「食の安全・安定的な提供」「地域の環境保全」など、我々の生活に直結する重要性を感じます。

幸い、先代の方々が作った経済発展のおかげで、我々は、食に対する安全を買うことが出来ます。

今後、「こども、孫にまで食の安全・安定を残し、これ以上の不安を食い止める」ためには、身近な点から、見つめ直していくべきかもしれません。